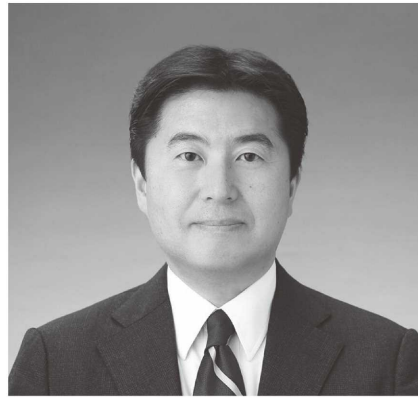


特別寄稿

年頭にあたって

日本銀行前橋支店 支店長 富田 淳



新年明けましておめでとうございます。旧年中は日本銀行前橋支店の業務に対し、格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。本年も引き続き宜しくお願い申し上げます。

さて、今年の群馬県経済は、大雪の影響や消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減の影響があったものの、家計や企業の所得が増加し、それが支出へと向かう前向きな循環が維持されたことから、基調的には緩やかな回復を続けました。

今年の群馬県経済を展望しますと、企業部門・家計部門双方における所得から支出への前向きな循環が維持され、駆け込み需要の反動減の影響も着実に収束に向かっていくと予想されることから、緩やかな回復基調を続けていく可能性が高いとみています。

日本銀行では、現在の経済の回復の動きをより確実なものにすることを狙って、昨年10月末に、「量的・質的金融緩和」を拡大しました。こうした措置は、日本銀行が、2%の「物価安定の目標」を、できるだけ早期に、そして安定的に実現すると強くお約束するものです。また、こうした約束を通じて、長年にわたるデフレの中で定着してしまった「デフレマインド」を転換し、人々が「緩やかに物価は上昇」することを前提に行動する状況を確実なものとするので、経済を「縮小均衡」から「拡大均衡」に変えることが可能だと考えています。このほか、日本銀行では、金融機関が金融仲介機能を十分に発揮できるよう、成長基盤強化支援や貸出増加支援の資金供給などを通じて金融機関の貸出業務を支援しているところであります。

群馬県経済にとって、去年は、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録、圏央道の延伸や東毛広域幹線道路の開通など交通インフラの拡充、ぐんまちゃんの「ゆるキャラグランプリ」優勝など明るい話題が続きました。さらに本年春には北陸新幹線の延伸開業も予定されています。こうした「追い風」の下で、県内の各企業がその潜在能力を存分に発揮されるとともに、所得の増加が中小企業や家計にも確りと波及していけば、当地経済の良好さがより一層広く実感を伴うものになっていくものと確信しております。日本銀行前橋支店としましても、群馬県経済のより一層の発展に向けて、今後とも最大限の努力をして参る所存です。

本年が県内企業の皆様にとって飛躍の年となることを祈念しまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。